

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	i	
	イ	21
	ii	
	エ	22
	iii	
	ウ	23
問二	ウ	24
問三	エ	25

問四	③	
	ア	26
	⑧	
	イ	27
問五	ア	28
問六	エ	29
問七	イ	30

問八				
た	く	し	木	自
と	な	い	崎	分
い	い	言	の	の
う	と	葉	言	過
こ	い	が	葉	去
と	う	思	を	を
。	こ	い	否	消
	と	つ	定	し
	し	か	す	去
	か	ず	る	り
	言	、	の	た
	え	木	に	い
	な	崎	ふ	と
	か	は	さ	い
	っ	悪	わ	う

問九	自	
	己	
	嫌	
	悪	
	と	
	劣	
	等	
	感	35
問十	戦	
	い	
	を	
	生	
	み	36

問十一	途	
	中	
	で	
	言	
	葉	37

31
32
33
34

		5		4		3				2	
⑥	①	①	①	①	問九	問五	問一				
波	招	ウ	エ	イ	イ	知	こ				
乱	待	②	②	②	エ	識	の				
65	60	55	50	48	(完答) (順不問)		42				
⑦	②	ア	オ	オ	問十	問六	1	畑			
熱	閣	③	③	③	ウ	エ	43	は			
弁	議	オ	イ	イ	49		2	人	38		
66	61	④	④	④			44	問二			
⑧	③	イ	ア	ア			3	ウ	39		
輸	忠	⑤	⑤	⑤			45	問三			
血	誠	エ	ウ	ウ			問七	エ	40		
67	62							問四			
⑨	④							ア	よ		
肥	救							問八	く		
68	63							エ	知		
⑩	⑤							問八	ら		
預	仏							エ	な		
69	64							問八	い		
								エ	者	41	

(配点)

①	〔問一〕 各2点、〔問四〕 各3点、	}	計150点
②	〔問八〕 7点、他各5点		
③	④	⑤	各2点

【解説】

1 まはら三桃の「零から0へ」から出題しました。

視力が悪いために兵役につけず、国の役に立てなかつたという思いをかかえたまま終戦をむかえた聡一は、鉄道技術研究所で時速200キロの「新しい電車」をつくるための実験に参加することになりました。「新しい電車」の開発を先導する木崎と、自分なりの思いを持って開発に参加しようとする聡一のやり取りが中心となった場面です。

問一 A2 関係つけ 知識

それぞれ次のことばが入ります。

i 聡一は風洞実験を楽しみに職場に向かったのですが、実際には軍から移ってきたわずか十人ほどの技術者しか実験の場にはいませんでした。しかし、木崎はそのことを想定していたようで、特に人数の少なさを気にすることなく実験を始めています。したがって、「たんたん」とが入ります。これを漢字で書くと「淡々と」になります。

ii 直後の「光に照らし出されている」に注目します。直前の「折しも満月」と合わせて考えると、木崎の背中が月明かりに照らされてきらきら輝いて見えていることがわかります。したがって、「こうこう」とが入ります。これを漢字で書くと「煌々と」になります。

iii 「平和を運ぶ乗り物をつくりたいです」という聡一の言葉にこたえるように、木崎の背中が伸びている様子が描かれています。したがって、「しゃんと」が入ります。

問二 B1 具体化 比較

表情から読み取れる心情について答える問題です。微笑んでいるという様子から、木崎がプラスの心情を持っていることがわかります。——線①の次の文に「設備の不足よりも、前に進めることの方が嬉しいようだった」とあり、仲間たちが設備の不足に不満をもらす中で、それに同意する部分はあるものの、それでも実験ができること、そして計画を少しでも前に進められることを嬉しいと思っている様子が読み取れます。したがって、ウが正解となります。ア「たのもしく思っている」、イ「意外に感じつつうれしく思っている」、エ「自分をほこらしく思っている」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 関係つけ 比較

空らんに入る適切な言葉を選ぶ問題です。なんとなく空らんに入れて読んでみるのではなく、なぜその言葉が入らねばならないのかということを考えながら選択肢を検討していきます。この場面で聡一は実験に感動を覚えていきます。しかも、その実験に使われているのは自分がつくった模型なので感動もひとしおなのです。「自分がつくった」に注目して考えると、エ「我が子の晴れ姿を見るような」が適切であるとわかります。

問四 A2 知識 比較

③ 「はばかりる」は、「はばかり」に自発の意味をそえる助動詞の「れる」がついた形です。「はばかり」は「気が引ける、遠慮する」という意味です。したがって、アが正解となります。⑧ 「おもんばかり」は漢字で「慮る」と書き

ます。「慮」を使った熟語に「配慮」「思慮」などがあります。「周囲の状況や相手の気持ちをよく考える」という意味ですが、イが正解となります。

問五 **B1** 具体化 比較

直前に「飛行機！」とあり、直後で木崎が零戦をつくっていたことについて聡一が質問していることに注目します。「そういえば」と言っていることから、聡一はこれより前の場面で木崎が零戦をつくるのに関わっていたのを知ったことがわかります。ここで聡一は、木崎が飛行機（零戦）をつくることで得てきた知識を新しい電車に応用しようとしていることを知って興奮を覚えているのです。したがって、アが正解となります。イ「事実を認めた」は事実と合いません。また、ウとエは事実間違ひはありませんが、聡一が興奮した内容としてはふさわしくありません。

問六 **B1** 具体化 比較

線⑤をふくむ一文が「なのに、まったく正当性を見出せなくなつてもなお、行けなかつた事実が、聡一を責めることがある。」となつています。つまり、戦争に行く必要がなかったといえる状態であるのに、聡一は（視力が悪いせいで行けなかつたことをつらく感じている、ということがわかります。設問は「どのようなことについての正当性か」を問うていますから、「戦争に行くことの正当性」という内容になっている選択肢を選ぶこととなります。したがって、エが正解となります。

問七 **B1** 具体化 比較

木崎は自分が持っている技術をすべてつきこんで設計した飛行機が若い人の命をうばってしまったことを後悔しています。また、その「若い人たち」と聡一は似たような年代であろうと考えられます。以上のことから、木崎の「よかつた」は聡一が結果的に死なずにすんだことに対しての発言だと考えることができます。したがって、イが正解となります。ア「亡くなった人たちを、聡一が今でも大切に思っている」、ウ「若い人を死なせずにすんだ」、エ「日本の勝利を祈っていた」がそれぞれ誤っています。

問八 **B2** 推論 具体化

線⑦について「どういうことか」を問う問題です。傍線部自体の言葉より詳しい説明が求められています。「同じ言葉」とは具体的にどのような言葉か、「口元を上滑り」するとは具体的にどういうことかを丁寧に説明しましょう。

「同じ言葉」とは、「木崎さんの責任ではないですよ」「木崎さんは悪くないです」という言葉を指しています。また、「口元を上滑りする」とは、聡一がそれらの言葉について確固たる自信を持って発言できていないことを示しています。さらに、その理由となる内容もふくめて解答を作りましょう。※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九

B1 関係つけ

直前の「長く苦しんでいた」から、聡一がどのようなことに長く苦しめられていたかを意識して本文を探すことが必要になるとわかります。この場面では平和を運ぶ乗り物をつくるという木崎に賛同して「手伝います」と言ったことで許されたような気になっていて、そもそも聡一は戦争に行けなかった自分を責めていることがポイントです。それらのことを意識して本文を探すと、——線⑥より七行後に「自己嫌悪と劣等感(にさいなまれた)」が見つかります。

問十

B1 置換

木崎が聡一に「美しい列車をつくろう」と語りかけていることから、「美しい列車」は木崎や聡一が理想とし、これからつくろうと思いついているものであるとわかります。少し前の部分、——線⑧から⑨の間の部分で木崎が「私は平和な乗り物をつくりたかった。戦いを生み出さない、美しく安全な希望の乗り物をだ。」と述べています。

問十一

B1 関係つけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。ぬけている文自体に注目し、「どのような内容が前にあるはずか」「どのような内容が後に続くはずか」を考えて、それにあてはまる場所を探しましょう。これにあてはめると「なにか不用意な発言だっただろうか」の前にある内容は——線④の四行後にある「だが、質問の途中で木崎の顔から笑みが消え、聡一は焦った」の部分、後ろの内容は「途中で言葉を引つ込めて：木崎が低く返事をした」になります。

2

内山節『高校生と考える人生のすてきな大問題 桐光学園

大学訪問授業』所収「考えはどこから生まれてくるのか」左
右社から出題しました。自分の考えを持つためにどのような
ことが必要なのか、筆者が長年暮らしてきた長野県上野村の
人々とのやり取りなどをもとに考察した文章です。

問一

B1 理由

山にすむ動物が遠慮なく畑に侵入して書くことが書かれて
いる場面を探し、そこにもどって本文を確認しましょう。す
ると、②の六行前に「人がいないと、どんな柵をつくつ
ても突破されてしまいます」という表現が見つかります。人
が暮らしている気配がない、すなわち畑にだれもいないとわ
かれば、動物たちは侵入を始めるのです。

問二

B1 関係つけ 比較

筆者自身が何度か仕掛けに引っ掛かっていることからわか
るように、高圧電線にふれるとドカーンというショックは
受けますが、命に関わるほどのダメージがあるわけではあり
ません。お尻のほうから侵入してくるのは、大太鼓を打ち鳴
らしたような音が耳元で鳴るのを嫌がったのであろうと考え
ることができます。

問三

B1 理由 比較

「そのままにして」は、クマが山から下りてきて筆者の家
を通り、どこかへ行くようになったことについて特別な対処
をしないことです。直後の「というのも」に注目し、クマの
習性を知っている村の人々にとって、特別な対処をしないこ

とは特に問題だと感じられなかったということです。したがって、エが正解となります。ア「人里で出会っても危なくはない」、イ「我慢することが求められるから」、ウ「悪さをすることはない」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 具体化

——線④をふくむ一文に「その（とき）」、さらに前の文に「そんな（話題）」という指示語が続いています。ていねいにさかのぼっていくと、ここでは上野村の人たちと自然保護の話をしていくことがわかります。——線④の段落とその次の段落を読み進めると、自然をよく知っている村の人たちにはその知識を語る言葉がなく、逆にまだまだ村の人たちから自然について学ぶことの多い筆者にはそれらを語る言葉がある、という状況が《2》の次の段落で説明されています。筆者はその逆転現象について「違和感」があると説明しているのです。

問五 B1 関係づけ

直前の「本で読んだ」をふまえると、本を読むことよって得られるものが⑤に入ることがわかります。筆者が身につけていて、村の人たちが持つていないものとは何か、ということ意識して探しましょう。——線④二行後に「ぼくのほうはいろんな本を読んだりしてそれなりに知識がある」とあります。

問六 A2 関係づけ 知識

それぞれ次のことばが入ります。

1 直前には、筆者が村の人たちからたくさんのお話を教わったという内容が書かれています。これに対して直後から実際に教わったことの具体例が書かれています。したがって、「たとえば」が入ります。

2 直前に書かれている「山のキノコをどう採ったら次の年に問題が出てくるか」と直後の「クマにあつたらどうするか」が並べて書かれています。したがって、「あるいは」が入ります。

3 直前の段落には、自分の考えは自分だけでつくるのではないということが書かれています。このことが、直後に書かれた「やってみたいと思ったことは、何でもやってみるのがいい。」という筆者の意見表明につながっています。したがって、「だから」が入ります。

問七 B1 理由 比較

この設問では適当でないものを選ぶことが求められているということに注目しましょう。アの「対照的」は、「比べる」とはつきりしたちがいがある」という意味の言葉です。多くの場合は正反対の状況を指しますが、必ずしも正反対の状況のみを指しているわけではないことに注意を向けておきましょう。——線⑥八行後に「考え方や行動はほとんど一緒」とあることから、アが誤りであるとわかります。

問八 A2 知識 比較

ここでの「うまくない」は「良い状態ではない、問題がある状態である」といった意味です。アとウは「技術が高くない、上手ではない」、イは「味がおいしくない」という意味

で使われています。

問九 **B1** 具体化 比較

適当なものを二つ選ぶという条件に注意を向けおきました。直前の文に「本という他者と関係を結びながら、自分の考えをつくってゆく」とあります。筆者の考察において、「他者との関係」は重要なキーワードであるといえるでしょう。また、最後二つの段落で、無駄だと思えるようなことをどんどんやっておくことの大切さが説明されています。以上のことから、イとエが正解となります。アは「他者の考えを吸収し、参考にする」、ウは「大学に進んで」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体・抽象化 比較

本文の内容と合っているものを選ぶ問題です。本文の内容と重なる選択肢をていねいに比べ、正誤を判定していきます。ア「すべて」、イ「数を慎重に数えながら行う必要がある」、エ「正確に知ることができる」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は《2》をふくむ段落の内容と一致しています。

3 **A1** 知識

同じ意味のことわざを選ぶ問題です。ことわざはそれぞれ具体的な状況を表現していますが、それらが何を意味するのか考えて言葉覚えていきましょう。

4 **A1** 知識

助数詞（ものを数えるための単位）の問題です。単に名詞と助数詞を結びつけて覚えるだけでなく、囲碁であれば「局」で数えることと「対局」という表現があることなど、熟語にも広げて暗記につなげましょう。